

HOYOG 教区新報

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
(本願寺神戸別院内)
電話 神戸(078)341-5949(代)
〔編集〕教区基推委広報部

1993. 11. 73号



本堂でのご遷仏法要

ご遷仏法要は、十五日が本堂、十六日が別院で、いづれも讃仏偈作法がお勤めされ、参拝の門信徒らは長年お参りしなれた別院での思い出をふりかえっているようでした。

光森師は、奈良国立博物館学芸課に三十三年間勤務された専門家である。ご遷仏法要に先立ち十月一日には、奈良国立博物館名譽館員・光森正士師(阪神西組金衆寺)がご本尊の損傷などについて点検・調査を行った。

当日は、約二時間かけて各部の寸法を測りながら細部にわたって点検・調査が行われ、本尊は室町時代末期ごろの作と推察される。

光森師の調査所見などは次の通り(調査報告書から一部抜粋)。

▼材質・造
檜材、寄せ木造、漆箔(粉溜、玉眼嵌人)

▼調査所見
本像は浄土真宗本願寺派神戸別院本堂に安置される。像高二尺四寸ばかりの古像で、別院創設以前の有縁の像を安置したものと考える。螺髪は大粒で、面貌がやや角張り、面奥もあまり深くない。着衣は両肩にかかる衣端を左右対称につく。これは中世以降流行する形である。

この像を特色づける造りは、頭部前面材と胸板材とを共材より彫出する点である。この技法は南北朝以来よくみられる技法で、阿弥陀像、地藏像などによく用いられている。

玉眼の開きも細くまた小さく、すこぶる伏目に造るところも時代の下降を物語る。袈裟の衣文様がすべて上から下方へと流れ落ちるような彫り口で弾力性やねばり、力強さに欠けるのは否めない。(二面へ続く)

解体を前に「ご本尊は室町時代の作」と光森正士師

別院・教務所の仮事務所移転も近づいた去る十月十五・十六の両日、別院ご遷仏法要が勤められ、建設・推進委員会代表者や工事関係者、別院門信徒らが参拝し、焼香した。

ご遷仏法要は、十五日が本堂、十六日が別院で、いづれも讃仏偈作法がお勤めされ、参拝の門信徒らは長年お参りしなれた別院での思い出をふりかえっているようでした。

若婦人の養成に向けて、昨年度から総連盟で開催している若婦人中央研修会の第二回が去る十月六日から八日に行われ、教区から山下法子さん(神明組養勝寺門徒)伊藤みゆきさん(高砂組正覚寺門徒)の二人が参加した。山下さんの感想から一部をご紹介します。

本山の若婦研修に参加してくれないかとお話しに初めてのことなので、どんなことをするのか頭の中は不安でいっぱいでした。

講義では、人間はほかかて生まれ、はだか死ねることや、仏婦活動の基本、また、地域での自身の疑問であった「日本では喜び事

現在、奈良国立博物館名譽館員・仏教文化財研究所主幹。

当日は、約二時間かけて各部の寸法を測りながら細部にわたって点検・調査が行われ、本尊は室町時代末期ごろの作と推察される。

「北海道南西沖地震」災害義援金につきましては、皆様方より心暖まるご協力をいただき、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

災害義援金の受け付けは本部災害対策委員会において十月末日をもって終了いたしましたので、御礼がたがたお知らせいたします。尚、先月号掲載分以降、次の方々が義援金をお寄せ下さいました。(敬称略)

▽姫路中組仏教婦人会▽神戸湊組光明寺

敬 弔

杉岡優美子さん(すぎおか・ゆみこ)神戸中組應誓寺前坊守)十月九日、七十七才で往生。葬儀は十月十一日、應誓寺で、「真行院釋尼妙優」。

丸岡賢彰師(まるおか・けんしょう)多紀組金楽寺前住職)十月十四日、七十三才で往生。葬儀は十月十六日、「寂靜院釋賢彰」。

昭和二十七年から平成四年まで住職在職四十年。本願寺派布教使。

磯崎岩雄師(いそざき・いわお)神戸西組正覚寺衆徒)十月二十五日、六十七才で往生。葬儀は十月二十七日、「淨信院釋嚴照」。

毎年、真宗教団連合から発行されております「法語カレンダー」(平成六年版)を教務所でも取扱っておりますので、電話かハガキでお申し込みください。価格は一部百四十円。ご希望の方は、お早めにお願いたします。

通称、モダン寺として多くの人々に親しまれてきた本願寺神戸別院



通称、モダン寺として多くの人々に親しまれてきた本願寺神戸別院

| 教区だより 11・12月 | | 2日(木)~3日(休) | 豊岡教堂報恩講 | 杉本堅正師 | 豊岡教堂 |
|-----------------|--------------|---------------|--------------------|-------|------|
| 9日(火)~10日(木) | 第三ブロック布教使研修会 | 4日(土) | 第一土曜仏教講座 | | 1時半 |
| 11日(木) | 愛生園・光明園報恩講 | 4日(土)~5日(日) | 中部・近畿ブロック仏社連区連絡協議会 | | 和歌山 |
| 13日(土) | 江並教堂報恩講 | 5日(日) | 永代経開闢法要 | | 大谷本廟 |
| 14日(日)~16日(火) | 別院常例法座 | 7日(火)~8日(水) | 第二回中央推進委員会 | | 本山 |
| 18日(木)~20日(土) | 組巡教 | 13日(月)~14日(火) | 第二回教区相談員中央研修会 | | 本山 |
| 27日(土)~29日(月) | 別院報恩講 | 14日(火)~16日(木) | 別院常例法座 | 和田智浄師 | 1時半 |
| 30日(火)~12月1日(木) | 連研担当者研究協議会 | | | | |

仮事務所の電話は 〇七八(三九三)五九四九(代)

別院・教務所仮事務所の電話、FAX番号が次の通りとなりました。

〔電話〕(右が代表番号)
〇七八(三九三)五九四九
〇七八(三九三)一九〇五
従来の〇七八(三四一)五九四九は転送となります。

〔FAX〕
〇七八(三九三)一九一八
尚、住所は 六五〇神戸市中央区加納町六丁目三十一です。

今年の別院報恩講修行などは、別途お知らせいたします。

若婦人中央研修 参加のよろこび

若婦人の養成に向けて、昨年度から総連盟で開催している若婦人中央研修会の第二回が去る十月六日から八日に行われ、教区から山下法子さん(神明組養勝寺門徒)伊藤みゆきさん(高砂組正覚寺門徒)の二人が参加した。山下さんの感想から一部をご紹介します。

本山の若婦研修に参加してくれないかとお話しに初めてのことなので、どんなことをするのか頭の中は不安でいっぱいでした。

講義では、人間はほかかて生まれ、はだか死ねることや、仏婦活動の基本、また、地域での自身の疑問であった「日本では喜び事

私の文章や言葉でたくさん喜びや感謝の気持ちを身体いっぱいにしていて、それを少しでもわかっていただけましたら幸いです。

参加させていただいたことを総裁さま、法座の先生に感謝いたします。

皆様もぜひ参加されますように。

教区仏婦連盟では、来年九月の第十回世界仏婦大会参加の旅の参加募集を行っていましたが、このたび、定員に達したため申し込みを締め切りました。

法語カレンダー 申し込みは早く

毎年、真宗教団連合から発行されております「法語カレンダー」(平成六年版)を教務所でも取扱っておりますので、電話かハガキでお申し込みください。価格は一部百四十円。ご希望の方は、お早めにお願いたします。

近く修理が望ましい

(一面から続く)

本像の制作は室町時代末期十六世紀くらいと推察され、江戸以後、明治初期くらいに補修がなされたものと考えられる。

寄せ木の矧ぎ目は着衣の襟筋を除いては大きくゆるむところはないが、造立後四百年以上は経過していると考えられる。

仏像は通常、四五百百年を経過するとどうしても痛みが生じ、修理の必要性が起ってくる。

本像では各部に漆の剥落が見られ、箔もほとんど落ち素地を露わとしており、

また、矧ぎ目もゆるんでいるのが認められる。特に足先、両手首の矧ぎ目は緊結を必要とする。

よって本像は近時に是非一度専門家(修理技術者)の手によって修理されることを望ましい。一度、全解体修理を施した方がよいと考えられる。

光背、台座は痛みは少ない。しかし、台座の蓮華部のみは抜本的に修理をしないと、地震等によって転倒する恐れがある。

蓮肉部が特に構造的に不備のまま、応急的な処置に止まっている。



「本尊を調査する光森師



別院本堂のご本尊

「20世紀の教団総括を」

五百回忌総局巡回で提言



する内容を表し「たのむ」という状態を明確にされた蓮如上人の表現などについて述べた。

続いて参加者の中から、瑞穂光信(組長)、藤栄行信(基推委員)、平山昇司(門徒代表)の三氏が提言を行い、瑞穂氏は、財政の見直しなしに懇志依頼がなされることの疑問や寺院子弟の龍大入学についての希望など、藤栄氏は、二十世紀の総括をすべき歴史的責任・義務を果たす作業がなされていない点や愛山護法の出でくる念仏聴聞のあり方が問われているのにそれを問う基幹運動について総合計画がふれていないことへの疑問など、平山氏は、長期の計画で懇志の上納方法や団参についての希望などを述べた。

去る十月十三日、総局巡回「蓮如上人五百回忌推進の集い」が別院で開催され、推進協議会では、組長さんらが総合計画・勧励要綱について説明を受け、蓮如上人鑽仰のついでには約百三十人が参加して、総合計画のビデオ上映や講話、参加者提言などが行われた。沖井道雄本願局長(中央法要事務所理事)は今回の巡回を、①蓮如上人のご事

講師の梯實圓司教は「蓮如上人の教え」と題して、「たのむ」と「たすけたまへ」を同義語として用い、「たすけたまへ」と「たのむ」と、間に「と」を入れることによって同義語反復として意味を強めて、おまかせ

TOO日誌

二三課題問う僧侶研修



僧侶研修会 (9/30)

◆9月25日 邑久・光明園から団参◆27日 神戸中組住職寺族同朋講座を光尊寺で。講師は森田智師(播磨東組妙覚寺)◆28日 比治ハロー広報委員会◆30日 僧侶研修会。田中郁朗中央相談員と久堀弘義師(神戸湊組行願寺)が問題提起。

田中師は一九七九年の町田発言を機に宗教者の体質が問われ、宗門では一九八三年から全寺院を対象に過去帳調査を行った後に、広島県の一住職から解放同盟広島県連に自己告発がなされ、水平社設立以来突きつけられた業・宿業の問題と、真俗二諦・信心の社会性の問題が糾弾学習会・同朋三者懇話会で煮詰められた課題として出てきたことを述べた。久堀師は「行為」がなぜ変質したのか、安居判決を通して、信心の原理的な意味などから三つの課題について述べた。話し合いでは「語る側の意識に問題があるのでは」、「世間のこ

とに首を突っ込まず、あり

がたいお寺さんになりなさいと言われ続けた中で、私たちは閉ざされた中であつた。「信心・後生の一大事をせまく見ていないか。生活そのものに見ていく必要があるのではないか」などの意見が出され、田中師は「信心と現実の領域を分けて信心が大切としてきた。領域を分けない現実に取り組んでいる私が、本願に出遇うことよってどれだけ大きなものをいただくかという」とまとめた◆青年僧会役員会。十五周年記念行事の反省。

土曜仏教講座。講師は中川正文師(大阪国際児童文学館々長) テーマは「生きて還る」。改築も近づいたとあつてか、感慨深そうな中川師と聴聞の方々でした◆3日 永代経開闢法要を大谷本願寺◆岡山北組妙願寺から団参◆4日 門徒推進員会報編集委員会◆4日 5日 寺族婦人研修旅行。ピハロー花の里病院での施設見学、能美島・徳正寺での晨朝参拝、広島市・光隆寺での安芸教区平和部会との交流学習会など内容がギッシリの研修旅行でした。参加された二十七人の坊守さんたちが、お疲れさまでした◆7日 別院仏婦永代経法要。講師は岡本幸信師(神戸中組極楽寺)◆8日

◆10月1日 近畿地区仏教婦人大会を大津の滋賀県立体育館で。教区から六百七十人が参加◆2日 第一

九折師の総務祝賀会



九折師総務祝賀会

◆14日 寺婦ブロック研修を養父組永照寺で。講師は教学研究所助教授・佐々木正典師。佐々木師から歎異抄をテーマに講義の後、今年「声明の基礎」と題して、教区勸式指導員・光森龍樹師(神明組安養寺)に日常勤行と御文章などを指導いただきました◆12日 寺婦ブロック研修。講師は佐々木正典師、光森龍樹師◆13日 総局巡回「蓮如上人五百回忌推進の集い」(別記)◆九折師総務祝賀会をオリエンタルホテルで。教区内役職者らが参加して、和やかな雰囲気の中に九折師の総務就任をお

祝いました◆14日 寺婦ブロック研修を姫路中組光源寺で。講師は佐々木正典師、光森龍樹師◆邑久光明園から大谷本願寺と本山参拝◆網干組住職寺族同朋講座を専念寺で。講師は津川肇師。(城崎組明元寺)◆14日 16日 別院常例法座。講師は尺一頭正師(揖龍西組西楽寺)◆15日 本堂遷仏法要。建設・推進委員会、戸田建設、中村建築設計事務所代表者や別院門信徒らが参拝。「しばらく縁が遠ざかりますが、いつでも声の仏さまとしてお呼びかけくださっているのが阿弥陀さま。完成して再びご安置しご本願を開かせていただく、一日も早くそうなるよう、その日を待ちかねこれからの計画を進めたい」と土基輪番。別院仏婦の堀尾幸栄さんは「母に背負われて来ていたので寂しい感じがするが、新しくなるのを期待しています」と話していた。記念撮影をして帰る門徒さんの姿も見られました◆16日 別院ご遷仏法要◆18日 門徒推進

【お詫び】先月号のこの欄で、九月五日、神姫組仏婦の団参が漏れておりました。お詫びいたします。

九折師の総務祝賀会